

飛躍

HIYAKU

第249号



「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate thy thought in thy early days

若き日に汝の体躯を養え

Make thy body vigorous in thy early days

若き日に汝の智能を磨け

Improve thy wisdom in thy early days

若き日に汝の希望を星につなげ

Chain thy hope to the stars in thy early days

TOP*NEWS

熊澤祐亮君(3-7) 夢は世界を飛ば 航空操縦学専攻(パイロット養成)合格 台風一過の秋晴れに青春を燃焼した建学祭 来校者最高の5,135名



ANAのコックピット



この門を5,135名の訪問者が通りました。

「航空操縦学専攻・パイロット養成コース」難関突破 附属推薦で高輪台高、浦安高、相模高から4名が合格

今年、東海大学、全日空が提携してパイロット養成を行う「航空操縦学専攻」が東海大学航空宇宙学科に新設されました。国内の大学では初めてのパイロット養成コースです。この狭き門に附属推薦で3年7組の熊澤君が挑戦し、この難関を突破し合格しました。おめでとう。大空を飛ぶことは誰もが一度は持つ夢。彼の夢は安全に世界の空を飛ぶこと。小学生の時に憧れた彼の夢のスタートです。しかしこれからハードな勉強と訓練があります。操縦訓練は米国ノースダコタ大学で行います。この選考基準は一次選考が英語力、二次選考が身体検査(第一種航空身体検

査)、航空適性試験、面接試験(日本語と英語による)です。学園から附属推薦で4名が合格しています。全日空と提携した東海大学はパイロットへの近道として注目されています。その上東海大学の附属の有利さがあります。

ところで、「航空操縦学専攻」が東海大学に新設される前の年に、本校卒業生でサッカー部のキャプテンをしていた先輩の筆口君が全日空に就職し、現在パイロット養成コースに所属しています。ですから熊澤君は本校から二人目のパイロット候補生です。3人目、4人目のパイロットが本校から誕生することを願っています。

建学祭



建学祭が盛況のうち無事終わる 3年7組 江戸川区立松江第二中学校出身 生徒会長 松橋 鑑

2日間続いた建学祭も盛り上がりを見せたまま、無事に終了しました。今年は気にかかった天候も二日間とも秋晴で、来場者数も5,135名という過去最高の結果が残りました。

今年は実行委員会の頑張りのおかげで、テーマである“colors”の通り、多くの個性を発揮した行事になったのではないかと考えています。新企画の「建学祭知財グランプリ」など新たな試みも見られました。また、英語スピーチコンテスト、日本語ディベートコンテスト、英語ディベートコンテストも熱のこもった大会でした。実行委員の皆様、先生方に感謝申し上げます。

英語スピーチコンテスト

水さえなくて死んでいく人がいる事に心を寄せて

1年11組 大田区大森第十中学校出身 鈴木 晴久

みなさんが知っている通り、貧しい人々が世界にはたくさんいます。日本では水道が完備されているので、水を自由に飲んだり、使用することが出来るのであまり貴重なものと思われていません。しかし、貧しい国々では水がまず手に入りません。それ故、人々は死んでいきます。今度、水を飲む時にほんの少しでも、そのことに思いを寄せてください。その水を飲むことが出来なくて、死んでいく人が世界中のどこかにいることを。そんな気持ちを私はスピーチしました。今回のスピーチは、金先生初めネイティブの先生方に指導いただき優勝しました。ありがとうございました。



優勝した2年7組のメンバー

日本語ディベート大会 2年7組優勝

●日本語ディベート大会議題●

「日本はレジ袋税を導入すべきである。是か非か」

緊張が喜びに

久山 貢一

2年7組 中央区立日本橋中学校出身

「レジ袋税」という題材で、不利な否定側ということと、ディベート経験者が少ないという厳しい状況の中、全員で協力し準備を進め、心を一つに本番に挑みました。

本番はとにかく緊張の一言で、手も足もガクガクでした。しかし「やって来たことをやろう。絶対勝てる」と、みんなで励まし合いました。対戦相手の10組は、緻密で丁寧なディベートを展開しました。とても強い相手でしたが、私たちの気持ちが勝り、7組が優勝を手にしました。一瞬にして緊張が喜びに変わりました。

私はこのディベートでたくさんの事を学ぶことができました。そのような経験をさせてくれた先生、応援してくれた友達に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

英語ディベート大会 3年12組優勝

●英語ディベート大会議題●

"Every Tokai University Student Should Live Independently"

全力を尽くす連帯感

伊藤 真憂

3年12組 渋谷区立代々木中学校出身

建学祭2日目、私たちは「大学生＝社会人になるための準備期間」という考えを軸に、英語ディベート決勝戦に挑みました。この軸は、クラスで行ったアンケートや周囲の大人の意見から浮き彫りになったものです。1人暮らしをすることについて、肯定側の意見の多くが自立を促すということにつながり、否定側は彼らにはまだできないという意見でした。私はこの身近な論題を考えることによって、私たち自身がもう大人に近づいているのだと強く感じました。

私たちは、全員がそれぞれに忙しかったので、ちょっとした時間の合間に自分ができる限りのことをやりました。仲間に話し、連携して準備を進めました。誰かに任せきりにせず、自分ができることは、みんなのために全力を尽くそうという連帯感を全員が持っていたと思います。このメンバーと一緒に最後まで頑張れたことがディベートの一番の思い出となりました。



優勝した3年12組と準優勝の10組

航空操縦学専攻(パイロット養成)合格

Dream come true. パイロットの道をめざして



熊澤 祐亮

3年7組
港区立高陵中学校
出身

小学生のころ、家族で出かけた海外旅行が飛行機との最初の出会いでした。小学生の私には機体が今よりはるかに大きく見え、離陸時の迫力、上空で見た雲海の壮大さに心打たれたことが今でもはっきりと思い出されます。この経験がパイロットを目指すきっかけとなりました。しかし、パイロットは責任のある大変な仕事です。

いくつもの試験を合格した人しかできない狭き門の職業だと知り、夢のような存在となりました。

それでもいろいろな進学の方法があることを知り、その一つとして、航空分野に近い学部のある東海大学を目指してきました。そして、航空操縦専攻課程の新設を知り、夢は現実の目標として具体的に見えてきました。その後は選考基準に合格するため、日常の授業の他に、短期大学での英語研修に参加するなど、英語に力を入れ、昨年は身体検査での不合格



者が多かったことを聞き、日常生活にも注意し、体力づくりに取り組みました。

今、ラインパイロットのスタートラインに立ったのは、夢を憧れで終わらせるのではなく、実現させるための努力を続けられたからだと思います。最後に、今まで自分を支えてくれた家族、先生、友人など多くの人に対して感謝したいと思います。

前期を終えて 親子の声

息子の声

渡部 佳介

1年4組 江東区立深川第四中学校出身

もう、1年の半分が過ぎてしまいました。入学する前から、友達はあるのか、部活についていけるかと心配でした。しかし、思っていたよりも友達はすぐできました。部活動の男子バスケットボール部は、優しい先輩が多く安心しました。勉強面は、科目がいろいろとあり、テスト勉強がはかどりませんでした。授業中に先生方が丁寧に教えてくれたので勉強面での不安がなくなりました。

文武両道を目指して、高校生活を送っていきたいです。



母の声

渡部 貴代美

佳介くんのお母様

息子は高輪台高校バスケットボール部の新人戦を見て、進学を決めました。4月に入学して、すぐに部活に参加しました。休むことなく練習の日々が続ぎ、毎日を楽しそうに過ごしていました。当初は勉強をする様子もなく、両立できていないのではと、とても心配になりました。

前期が終わり、不安な思いで通知票を受け取り、開いて見ると、思っていた成績より良かったので胸を撫で下ろしました。本人の努力と先生方のご指導があったからこそ両立する事ができていたのだなと思いました。これからも、ご指導をよろしく御願います。

2006年度学校運営方針

知的財産教育への積極的な取り組みの推進

「知的財産教育推進委員会」が中心となって課題に取り組みます
 高校現代文明論などを通して知的財産を考え、創造する

………科学や技術を創造する個性あふれる人材の育成・教育を目指して………

資源の乏しいわが国は、「科学技術創造立国」あるいは「知的財産立国」を実現することによって、平和で豊かな国づくりに取り組まなければなりません。そのために、科学や技術を創造する個性あふれた人材の育成・教育が大きな課題となっています。本校は、東海大学との連携のもとで、「知的財産教育推進委員会」が中心となってこの課題に取り組んでいます。具体的には、高校現代文明論、ホームルーム活動の時間、建学祭を活用し、知的財産教育を推進しています。

第1学年

高校現代文明論の中で、4時間を使って、「経済活動におけるモラル」をテーマに「知的財産権の歴史や大切さ」を学びます。

第2・第3学年

ロングホームルーム活動を利用して、「知的財産の創造」を学びます。

学園オリンピックの「知財部門」への生徒の積極的参加を促します。

今年度は大山あゆみさん（1年3組）、松橋鑑君（3年7組）が、東海大学孺恋高原研修センターで行われた「学園オリンピック夏季セミナー」に参加し、「知的財産部門」で見事、優秀賞を受賞しました。

「建学祭知財グランプリ」賞を新設

今年度より、建学祭展示でもっとも独創性と主体性が発揮されたクラスを表彰します。

第1回建学祭知財グランプリは、1年2組の「あべーろ」。

第1回建学祭知財グランプリは、1年2組の「あべーろ」。展示内容などに独創性があるか、クラスの協力体制などを観点に、生徒会、後援会、教員代表からなる審査員が審査しました。また、準グランプリは3年2組「たにせん」と2年10組「選択の教室」が選ばれました。おめでとう。



付属高輪台高等学校中等部設置認可書授与式 生徒たちの未来を育むために全力をつくします



9月8日、東京都から中等部設置が認定されました。そして10月6日、都庁において学校設置許可書授与式が行われました。認可書の本文は「平成18年1月30日付 東海大第05-115号で申請のあった東海大学付属高輪台高等学校中等部の設置については、学校教育法（昭和22年法律第26号）第4条の規定により認可する。」と都知事名で記してあります。これにより正式に来春、中等部第一期生を迎えることができます。大きな責任を感じます。生徒たちの未来を育む場となるよう、そしてあらたな高輪台高等学校の飛躍となるように全力をつくします。

SSH活動報告

8月9、10日、全国のSSH指定校72校が参加した「平成18年度生徒研究発表会」がパシフィコ横浜でありました。本校からは、3年SSHクラスの平塚結花、和知達哉の両名が大勢の前で自らの研究を解説し、報告しました。彼らの研究は今の植物バイオテクノロジーでも最先端の部類のものであったため、質問の内容も多様で深くするどく、本物の学会を連想するような質疑応答でした。また武佑哉君と市川拓也君が、ポスターによる発表をしました。いずれも物怖じすることなく、研究に対する自信をさらに持ったのではないかと思います。

初めてのSSH教育を経験 高校生が大学生と同じような姿勢で研究

新井 真人
教諭 理科担当

私は今年度初めてSSHの活動に関わったのですが、それまでの経験してきた理科教育とは違って、世界に向けて自らの研究を発表するためのカリキュラムであると感じました。

担当している生徒たちの取り組む姿勢は既に理系学部の研究生並みです。今私の心配事の筆頭上がるのが、根をつめすぎて体調を崩してしまわないかということです。ここがやはり大学生と高校生との違いなのでしょう。

しかし、違った意味で大学生との違いがあります。それは私たち大人以上に固定観念にとられない思考ができることです。そのような研究は不可能と思われることでも突き詰めて考えようとするのです。もちろん、そのほぼ全ては不可能なことが多いのです。しかしその思考の中から、とてつもない良質の案が出てくるのです。

彼らには、その専門的に染まりきっていない柔軟な思考で、さらに上の学府での研究を行うように期待しております。



生徒研究発表会会場 パシフィコ横浜

「赤色と青緑色LEDがトレニアに及ぼす影響」 を発表

平塚 結衣

3年11組 江戸川区立清新第二中学校出身

会場は私の想像をはるかに超える人数でした。そこで「赤色と青緑色LEDがトレニアに及ぼす影響」について全国から集まった参加者を前に発表しました。太陽の光には色々な色(波長)があります。その色それぞれが生物にどのような影響を与えるのかに疑問を持ちました。その内の赤色と青緑色に注目して実験しました。その結果、赤色光をあてたものは、背丈が小さくて茎が左右によく広がったものが育つ事。また青緑色光をあてたものは、背が高く茎が細長く育った事、また赤色光をあてたものは開花しないはずが開花してしまった事などをプレゼンテーションしました。1番良い研究発表が世界の舞台上で発表できます。残念ながら選ばれませんでした。しかし、今までの結晶を多くの人に知って貰え、私は達成感を味わいました。質疑応答では様々な意見を頂きました。また、他校の人達の発表、ポスターセッションを聞く事で互いを高めあう事もできました。この発表はこれからの繋がる大切な経験となりました。



平塚結衣さんのパワーポイントによる発表

暗中模索の研究に光が見えてきた 11月の国際大会は、英語で発表

武 佑哉

3年11組 我孫子市立我孫子中学校出身

私は、ポスターで口頭発表をしました。全国規模のため、私の研究を高校生、大学の先生など多くの専門家の方たちにも聞いていただけました。

研究内容は「豆乳の生クリームを作る」です。テーマを見つけ、テーマに沿ってどのように研究するか、ひとりで暗中模索の日々でした。しかし私の発表を、素直に感心してくれる人の顔を見たとき、頑張った良かったと思いましたし、嬉しかったです。他校の先生方にも講評していただき、今後の課題が増えました。

関西や東北の高校生とも親しくなることができました。この研究をさらに進めて11月、立命館大学で行う国際大会で私は英語で発表します。そのとき、再会できる人もいるので楽しみです。その発表会が自分の研究の集大成です。今まで自分が何をやってきたのか、そしてそれがどこまで通用するものなのかを確かめる機会です。今回の体験を生かし、研究をさらに進めていきたいと思っています。



武佑哉君と市川拓也君のポスターセッション

活躍

する卒業生

Active Graduates

1979年卒
西崎 泰弘
東海大学医学部付属
東京病院副院長

「希望を星につないで活躍する卒業生」。今月は東海大学医学部付属東京病院副院長の西崎泰弘先生を紹介します。先生は重責を担いながら、指導医として若手の育成にあたり、一方で患者さんからの厚い信頼を受けていらっしゃいます。多忙にもかかわらず、昨年夏、本校で行いました保護者交流懇談会（今年度より東海カルチャーセミナーに改称）では、保護者の皆様に食習慣と生活習慣病について講演をしていただき、好評を博しました。

私は今からちょうど30年前の昭和51年（1976年）4月に東海大学高輪台高等学校に入学しました。当時は男子校で、学生数は普通科350名、工業科150名で、黒い詰め襟の学生服が制服でした。東海大学直系の付属高校ではなく、現在の甲府高校や山形高校と同じで「付属」の文字は冠していませんでした。杉並の区立中学から数校を受験し他は全て不合格。すなわち滑り止め入学でしたので、敗北感に満ちた入学でした。しかし、今となって見れば「他に合格しなくて良かった」と思っています。人生とは分からないものです。

私の父は研究を主に行う医師でした。ゆえに、将来は漠然と医師になりたいと思っていました。高校生活は実に楽しく思い出深い3年間でした。お世辞にも真面目一辺倒の学生とはいえ、社会的ルールこそ踏み外しませんでした。大人と子供の狭間で「自分像」が形成された大変意義深い3年間であったと思います。それに大きく影響したのは友人ですが、私の場合は大変恵まれていました。勉強は一応それなりにやっていたのですが、卒業の謝恩会で父が担任の先生に「要領が良い学生さんでした。」と言われたそうで、その夜叱られたのを覚えています。本当に要領が良かったかどうかは別として、私は「要領」自体は必ずしも悪いことではないと今も思っています。「要領」とは「全体を見渡し、何が重要かを見極め、そこに力点を置いて頑張ること」、すなわち方法論だと思います。「有効

努力」「効率性の向上」といえば誰もが納得できると思いますが、「要領」というと何かイメージが悪いのは事実です。確かに人と人のつきあいに要領があってはいけません。でも、労作に要領は必要です。

医学部では、外部入試を経た優秀な人達が沢山周りに居ました。当時の入学時平均年齢は約20歳、すなわち2浪が普通でした。よく付属学生は入試の荒波に揉まれておらず、相対的に知識が未熟、内面的にも「子供」といわれます。それは部分的には正解だと思いますが、付属生の良い点も多々あり、性根が真面目で、比較的価値観が一定しており素直です。医学部において、付属出身者は入学時こそ低いランクに密集していますが、年を経るごとに二局化し、卒業時にはトップレベルを占める人間が何人も出てきます。

医学部卒業後は、実家が都内であるため慶応大学で研修し内科系大学院に入学しました。慶応大学医学部と云えば最高の頭脳集団なので、私は「自分以下の人が居るはずはない」と思いながら飛び込みました。開き直って周囲を見渡すと、実際は特段の開きはなく、結局どこに力点を置くかが「差」となっていると感じました。勉強する者、遊ぶ者、研究に走る者、アルバイトに走る者。私が研修医となった当時、慶応の研修医は1/3が他大学出身者でしたが、慶応の人達は、自学出身者も含め「頑張っているのは誰か」ということで常に評価して



くれました。良き先輩と沢山の友達に出会い、慶応が真にリベラルで国際的な価値観を重んじる学校であることを学びました。人間とは個々の資質にはそれほど大きな差はなく、大切なのは意思だと感じます。

その後、アメリカに（UCLA）3年間留学させていただきました。母校に戻り12年目ですが、現在は付属病院の副院長を務めています。付属高校から医学部へ行き、慶応大学を経て外国を見て母校に戻って来ましたが、結構きつい時もありましたが、前向きに考えることが私の基本です。以下私が常々心掛けていることですが、1) 常に全体がどうなっているのかを知り、その中で自分はなにをなすべきか考え、仲間と共に協調してやってゆくこと。2) 常にポジティブ思考を持つこと。3) 感謝すること。4) 自分の中で何事にも垣根を作らないこと。5) 私利私欲のために物事を考えないこと。これからもこうありたいと思っています。

希望を星につないで

吹奏楽部 日本管楽合奏コンテスト全国大会出場 11月5日（文京シビックセンター大ホール）

全日本吹奏楽コンクールとは異なるメンバーで出場。過去3度、最優秀グランプリを受賞しています。

救急業務協力に対する感謝状

本校の救急業務に対する深い理解と 訓練等の取り組みが評価される

9月9日は「救急の日」です。この日を含む1週間を「救急医療週間」といいます。本誌3月号で紹介しましたように、昨年度、後援会よりご寄付いただいた建学祭収益金で、3台のAED（自動体外式除細動器）を設置しました。これを機会に全教職員が、普通救命講習を受講し、救命技能の認定を受けました。緊急の場合、本校の生徒のみならず、近隣の方々のお役に立つことができます。

本校のこの救急業務に対する深い理解と、訓練などへの積極的な取り組みが認められ、9月6日、高輪消防署長から、「救急業務協力に対する感謝状」をいただきました。本校の他にも地下鉄泉岳寺駅、白金高輪駅、港区立港南中学校などの12団体が

高輪消防署で表彰されました。とはいえ、今後も油断することなく、生徒の安全のためには全力を尽くしてまいります。



高輪短大 INFORMATION



問題解決科目の紹介

情報・ネットワーク学科講師 貴田 研司

本学では、問題解決に必要な情報の収集、整理、分析を行うための知識、考え方を多角的に学ぶため、また、4年制大学に編入後の基礎的な役割を果たす科目として、問題解決科目(群)を開講してい

ます。その中で私の担当している3つの数学の科目を紹介します。①線形代数・・・自然科学、人文・社会科学の幅広い範囲に応用されているもので、必要不可欠なものです。行列と行列式、連立一次方程式の解法、線形空間と線形写像、固有値と固有ベクトルなどの基礎的な部分について講義しています。②微分方程式・・・自然現象の空間的あるいは時間

的变化に関する法則は常微分方程式で表され、空間と時間の変化に関する法則は偏微分方程式で表されます。1階と2階の常微分方程式の解法を中心に講義しています。③確率・統計・・・天気予報、視聴率、実験のデータ解析など、社会の様々な場面で登場するものです。確率の基礎から確率分布、そして推定・検定について講義しています。以上ですが、高校生のうちからこのような勉強をしておいてもよいのではないのでしょうか。

お知らせ

ベストティーチャー・タイプA 候補決まる

5月18日、7月13日に「生徒による授業評価アンケート」を行いました。その結果、今年度のベストティーチャー・タイプAに8名の先生方が候補として決まりました。保護者の皆様には11月16・17日の「一斉公開授業」をはじめ、11月22日までのご都合の良い日に来校の上、8名の先生方の授業をご覧いただき、保護者による「授業評価アンケート」にご協力をお願いいたします。

【2006年度ベストティーチャー・タイプA候補一覧】(教科順)

教員名	教科	科目(担当学年)
伊藤 明	国語	現代文/古典Ⅱ(3年)
今井 貴志	地歴・公民	世界史B(2年)
田村 英典	数学	数学A、数学Ⅰ(1年)
畠田 貴生	理科	化学Ⅰ(3年)
田中 亨	英語	リーディング、オーラルコミュニケーション(3年)
関口 麻里	英語	英語Ⅰ(1年)、CALL(3年)
山口恵美子	芸術(音楽)	音楽(2年)
高野 道子	芸術(音楽)	音楽(2年)

※授業時間は担任または学校にお問い合わせください。「一斉公開授業」の時間割は後日お知らせいたします。

行事予定

November 11月

- 1日(水) 学校法人東海大学建学64周年記念式典(生徒休業日)
- 2日(木) 本校創立63周年建学記念式典
- 3日(金) 文化の日
- 6日(月) 付属推薦合格発表(3年、手続き期間~16日)
- 8日(水) 専門医によるカウンセリング
- 10日(金) 後援会湘南校舎見学研修会
- 11日(土) 受験生・保護者第3回学校見学説明会(10:00)
- 14日(火) 金曜日の授業
- 16日(木) 一斉公開授業、校医相談日(15:00~17:00)
生徒会立会演説会(1限目)
- 17日(金) 一斉公開授業
- 18日(土) 東海大学付属推薦保護者会(3年)、保護者会(1年)
- 20日(月) 英語・高校現代文明論モデル校研究公開授業
- 23日(木) 勤労感謝の日
- 25日(土) 3年スポーツ大会(アリーナ)
- 30日(木) 生徒による授業評価アンケート

December 12月

- 1日(金) 朝礼
- 2日(土) 後援会委員総会
- 4日(月) 中間試験(1、2年)(~7日)
卒業試験(3年)(~7日)
生徒自宅学習(3年)
- 8日(金) 受験生・保護者第4回学校説明見学会(10:00~)
- 10日(日) 答案返却日(3年)
- 11日(月) 特別講座開始(3年)
- 12日(火) 入試相談(生徒自宅学習)
- 15日(金) 2年スポーツ大会(アリーナ)
- 16日(土) 冬期休暇前諸注意・大掃除(7限目)
- 22日(金) 天皇誕生日、希望者講習(~28日)
- 23日(土) 吹奏楽部第17回定期演奏会(川崎)
- 24日(日) 吹奏楽部第17回定期演奏会(川崎)
- 25日(月) 年末年始休暇(~1月7日)
- 29日(金)

建学祭のスナップ



編集後記

天高く馬肥ゆる秋。秋空は美しい。ところで、立ったまま前方に見る空と、頭上に見る空は違う。真上の空には天、宇宙を感じる。底知れない群青色の宇宙に身体ごと吸い込まれそうな錯覚を覚える。啄木が「不來方のお城の草に寝ころびて空にすわれし十五の心」と詠んでいる。夢と現実のはざままで少年の小さな胸には治まりきれない葛藤があったのだ。お城の草原に寝ころんでみると宇宙の大きさに涙を溢れさせ、そして一瞬それを忘れたというのだろうか。私も浅間山麓の草原でいつか真似してみた。確かに世俗にまみれた心身が洗われた。この宇宙の下では些細な事に思われた。Y君、君も大きな天を仰いでごらん。きっと楽になるよ。(ゆ)

東海大学付属高輪台高等学校

TEL.03(3448)4011 FAX.03(3448)4020 ホームページ: <http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>